



小学校の教科書における動物とのふれあいに関する描写と課題

○柿沼美紀¹・野瀬 出¹・畑 孝²・米川秀彦²・田口 諒¹・小林福太郎³・矢野英明⁴

¹日本獣医生命科学大学・²杉並区獣医師会・³東京女子体育大学・⁴帝京大学小学校

諸言

文科省は平成29年告示の小学校学習指導要領解説-生活編-の中で継続的な動物飼育や動物との触れ合いを通して、動物が生命を持って生きていることや、自分との関わり方に気づく重要性を指摘している。

教育現場において子どもが手本とし、教師や見本として示すのが教科書である。本研究では、小学1・2年生の道徳科及び生活科の教科書の記述を分析し、どのような動物が取り上げられ、どのような関わり方を推奨しているかを検討する。

さらに、動物介在教育を推進する者が小学校における動物の位置付けを理解した上で、専門家として小学校で動物介在教育を実施する際の留意点について検討する。

方法

材料：平成29年度に検定を受けた小学校の道徳教科書1,2年生用と平成27年度検定の生活科教科書（生活科14冊、道徳16冊）

分析：動物を題材とした文章、動物と人の関わりに関する文章を抽出し分析した。具体的には登場する動物種、授業の目的、挿絵の内容などである。動物がキャラクター化されたものは除外した。

結果2 指導要領の項目別動物の登場数

生活科		道徳科	
項目	数	項目	数
身近な自然との触れ合い	33	生命の尊さ	19
時間と季節	20	自然愛護	7
身近な人々との接し方 (学校探検を含む)	9	感動、畏敬の念	6
地域への愛着	9	正直、誠実	4
成長への喜び	6	規則の尊重	3
情報と交流	6		

結果3 動物との関わり方



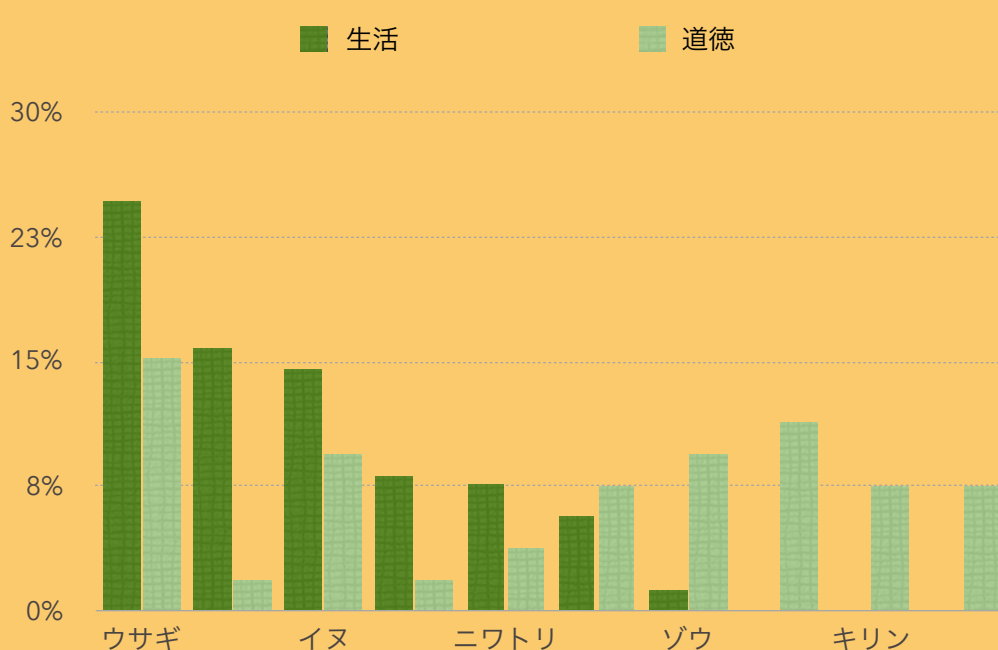
図2 (左上) 大日本図書 せいかつ 上

図3 (上) 東京書籍 どうとく 1年

図4 (左中) 光村図書 せいかつ 上

図5 (左下) 学校図書 どうとく 1年

結果1 教科書に登場する動物 (子どもにとって身近な動物)



生活科では145回、道徳科では41回動物が登場している。

図1 各教科の教科書に出てくる動物の比率を%で示す。

考察

両教科において、動物は自然との触れ合い、生命の尊さという項目で取り上げられている。

登場する動物はウサギが最も多い。その他の動物に関しては教科によって違いが見られた。生活科は身近な動物、道徳では野生動物が含まれていた。

ウサギとの関わり方は抱く、心音を聴く、鼓動を感じるなどが両教科で明示されていた。しかし、その方法には動物福祉的に課題が見られた (図2、5)。

獣医師は動物と話ができる、という記述もある (図4)。

動物とのふれあいが、相手を思いやるといった情操教育に軸を置くのであれば、介在教育などの専門家が動物の立場にたった関わり方を教えることが求められる。